

『子供たちが担う未来の絆を深く』

～人権教育部会第3回研修会（事例学習）を開催しました



夏休みが明けたばかりの8月22日、講師に北部中学校長の林満彦先生をお迎えし、保護者や部会員など40名ほどが参加して、人権教育部会の研修会を行いました。

北部中学校の教育目標の一つである「いずれの日にか代を負い立てよ」の言葉通り、地域の歴史を学びつつ、未来に向けて自分らしい人生を実現していく力を育てようと、キャリア教育の充実に取り組んでいることなどを、具体例を交えながらお話いただきました。子供たちに寄り添いつつ、職業体験などを通じて着実に果たされる成長の跡を見出して励ます先生のお姿がとても印象的でした。

講演後の質疑応答では、いじめに関する質問があり、「兆候を早い段階でつかんで解決することを目指している。インターネットについても、いかに正しく使うか、ということに重点を置いている」とのことでした。全国で中学生をめぐる様々な事件が立て続けに報道される現在、難しい時代を生きている子供たちに、地域に何ができるかということを考えさせられた研修会でした。（人権教育部会）

～連載～ 「若槻自然遺産」登録候補の紹介

（其の2）昭和の森公園 癒しの森、里山の原風景

森の中に一歩足を踏みいれると、そこにはひんやりとした緑の風があふれていた。

30種類のシダ、若槻のシンボルであるケヤキ（樺＝槻）、クルミ、クマノミズキ、アカマツ、カツラ、コナラ、クヌギなどの樹木と其の下の地面を覆う草花…300種を数えるだろうと推測されている植物群。

その森や林の中はフデリンドウ、シュンラン、はもとより名もない草花・里山の踊り子たちが競い合う初夏、シジュウカラ、ヤマガラ、カワラヒワ、コゲラ、アオゲラなど一年中見られる野鳥、夏冬の渡りで訪れる野鳥のほか70種以上の野鳥にとって公園の森は安心して過ごせる楽園、国蝶のオオムラサキ、クロアゲハ、ルリシジミ、ジャノメチョウ等50種類以上の蝶が舞い、カブトムシ、クワガタ等が樹液を求めて集まり、セミが鳴き、トンボが飛び交う。夜になるとホタルが舞う森、生き物の楽園なのです。この森で「玉虫の厨子」のタマムシに出合えるって知っていますか。

これは戸隠高原や飯綱高原の話ではありません。

これほど豊かな自然が私たちの身近な所にあるという事を皆さんご存知でしたか、また訪れたことありましたか。

その場所こそ「昭和の森公園」なのです。

その昭和の森公園はいつどのようにして誕生したのでしょうか。

13.5ヘクタールの約半分を元々あった森や林が占める昭和の森公園は国が推進した「昭和天皇在位60周年記念

事業」と「長野州市制90周年事業」を併せて昭和63年秋に完成した公園です。

名称が若槻台運動公園ではなく「昭和の森公園」となった理由は戦後緑の天皇として全国の植樹祭に臨席された昭和天皇の「昭和天皇在位60周年」の記念事業であることを末永く人々の記憶に留めるためでしょう。

ですから、昭和の森公園にとってこの自然の森や林はそれ自体で重要な意味を持っているのです。

里山の自然が凝縮された森、これほどの自然が身近に、皆さんの家のすぐ近くに有るのです。公園内を散策しながら自然に触れて心身をいやし、草花・野鳥・昆虫など様々な生き物と出会いながら自然を知るそんな環境学習のフィールドとしても最高の場所です。地域の貴重な宝として、皆さんもっともっと公園を散策してください。

自然環境部会では昭和の森で樹木、草花、昆虫、野鳥等をテーマに毎年数回の自然観察会を開催していますので是非ご参加ください。

尚、昭和の森の事をもっと知りたい方、説明・ガイドを希望する方は自然環境部会に相談してください。

（文責・大村道雄）



昭和の森公園の全体像は多目的広場入口に掲げられている案内看板に見る事が出来ます。南と北で全体の半分以上を占めている森が昭和の森公園の由来でありシンボルなのです。



木々に囲まれた東屋にくつろぐと緑の精気が全身を優しく包み、癒しの一時を過ごすことが出来る

清水沢に架かる橋 回りには深山幽谷の趣が漂っている